

## 平成29年度 学校評価報告書

1学期末、2学期末の保護者懇談会の折には、「学校評価保護者アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。「生徒アンケート」「教職員自己アンケート」の結果と併せて、川北中学校の現状の分析をし、今後の方策について教職員で話し合いました。そして、2月22日(木)に学校関係者評価委員会を行い、評価委員の方からご意見をいただきました。

学校関係者評価委員 ・本校育友会会長 ・本校育友会母親代表 ・町社会教育委員長  
・町教委いじめ対応アドバイザー ・校区小学校教頭代表

### 取り組みの現状と今後に向けて

#### ①組織的な学校運営

- ・教職員アンケートでは組織的な分掌運営に対する肯定的回答が100%である。学年会や、職員室での話しやすい人間関係の構築を意識して進めることで、大いに当てはまると感じることでできる割合をより高めていきたい。
- ・教職員アンケートでは、いじめのない学校づくりに対する肯定的な回答が95%あり、組織的な早期対応に努めている。また、今年度から年2回のQU分析を行い、学年ごとに追跡調査を行ったり、気になる生徒に関して面談などを通して状況把握に努めている。ただ、保護者アンケートでは否定的回答も6%あり、十分理解されていない面もある。今後も情報の共有に努め些細な変化も見逃さない体制づくりを進める。

#### ②確かな学力の向上

- ・教員間の授業交流や月ごとのテーマ設定を行うことで、授業改善への意識を教員全員で持つことができた。また、スモールステップでPDCAサイクルを回すことができた。
- ・県基礎学力調査及び全国学力学習状況調査においては良好な結果を維持している。しかし、1，2年生では度数分布に二極化や悪化が見られるので、今後も、授業改善、基礎補充などを継続していく。また、教科部会をより充実させて、学力向上のために実践を充実させていく。
- ・生徒アンケートでは中間評価と比べて若干肯定的な意見が増えてきている。各学年ごとに家庭学習の点検と補充は行われており、全校挙げて取り組むことはできている。生徒が自分で進んで計画を立てているのだと感じられるように声かけを行い、自覚を促していく必要がある。

#### ③豊かな心の育成

- ・生徒指導の3機能を意識してここまで学校行事や学級活動等に取り組んできた。生徒アンケートの「自分にはよいところがある」の肯定的回答は72%で中間評価に比べてやや向上した(4%増)が、依然自尊感情が低いことがわかる。役割を与え実行させたり、自分で考える時間を授業の中で確保したりする中で、できていることに目を向け、認め励ます指導を継続していく。

- ・生徒アンケートの「道徳の時間が好きだ」の肯定的回答が7月82%、12月86%とどちらも高い。教職員アンケートの「『考える道徳』の授業モデルの実践に努めた」の肯定的回答も93%ということから教職員の意識の高さがわかる。板書を撮影したデータからも授業のさまざまな工夫が伺えるので、道徳の教科化に向けてさらに研究を進める。また、教育活動全体での道徳的实践力を養うためにさまざまな活動の中で心の教育を意識して取り組んでいく。

#### ④健康な心身づくりの推進

- ・部活に関する生徒アンケートで肯定的回答が89%である。また、保護者、教職員アンケートの肯定的な回答が92%と87%である。今後も部活動顧問会を定期的に行い共通確認と情報交換を密にしていく。また顧問と学級担任間の連絡も継続して密にしていく。
- ・教育相談に関しては、「生徒が先生は困ったことの相談にのってくれると感じている。」というアンケートの「そう思う」が52%「どちらかといえばそう思う」が39%で肯定的な回答が91%である。中間評価時よりも肯定的な回答が6%増加し、改善が見られる。保護者アンケートでも肯定的回答が98%で、中間評価の96%と同様に良好な結果であった。今後も生徒理解と親身な対応に努め、相談活動を充実させていくとともに、全教職員がすべての教育活動の中で生徒の動向に気をつけ、随時情報を共有していく。

#### ⑤家庭・地域との連携

- ・アンケートにより、保護者が、学校は行事予定や生徒の様子を、各種お便りやWeb・メールなどでよく知らせていると感じている。今後もメッセージ性ある情報発信を心がけていく。
- ・学びの組織的実践事業の「学びのロードマップ」の実働化を継続する。次期学習指導要領の示す「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、地域社会との連携・協働をより推進していく。

学校関係者評価委員会で評価委員の方々からご意見をいただきました。

- ネットトラブルに関してはまずは先生方が学んでいく必要がある。
- 今の子は失敗体験に弱い。大人が先回りして手立てを準備しすぎるのではないか。時には経験することも必要である。
- 子どもに関係する大人がもっと関わって行く必要がある。
- 川北にUターン就職する子を増やして欲しい。(今、Uターン就職率が高いと感じる。それは先生方のおかげでもあると考える。)

今後とも川北中学校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。